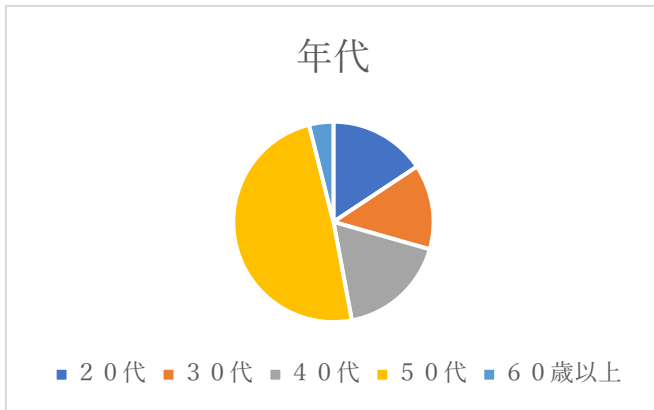


令和2年度、第5回医療・介護合同研修会受講者アンケート結果

テーマ:事例から学ぶ認知症ケア 参加者:67名

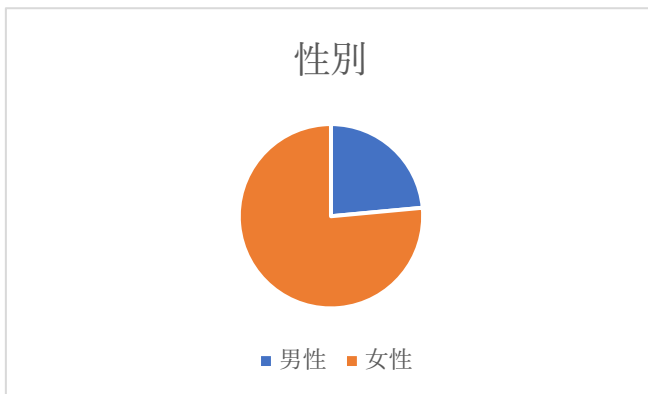
令和3年1月18日

1.あなたの年齢「51件の回答」



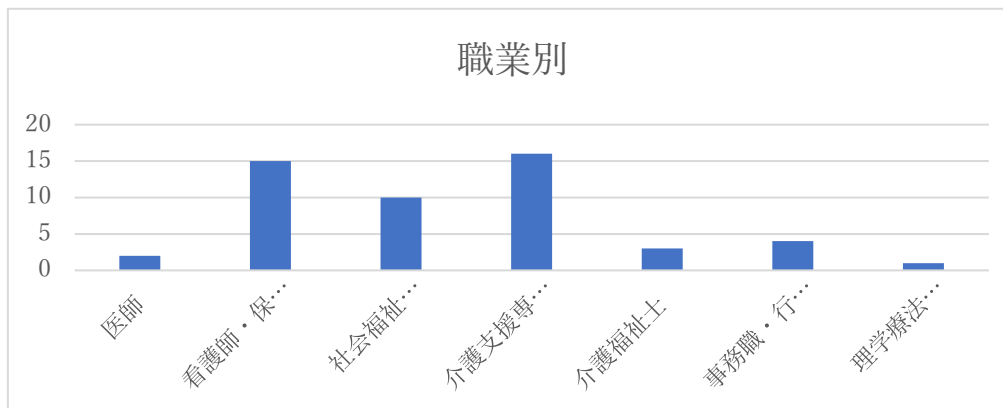
20代	8
30代	7
40代	9
50代	25
60歳以上	2

2.あなたの性別について「51件の回答」



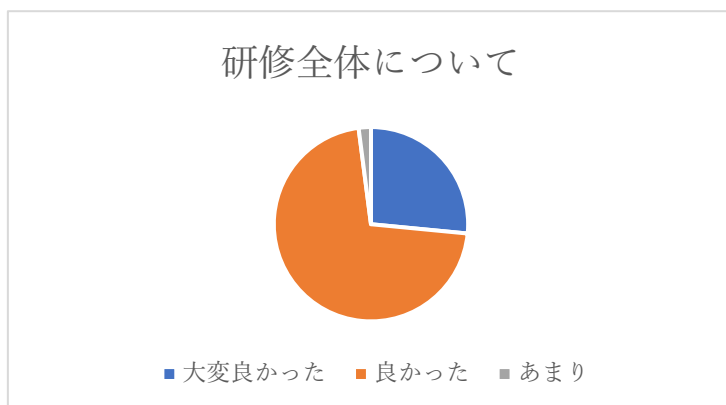
男性	12
女性	39

### 3.あなたの職業について「51 件の回答」



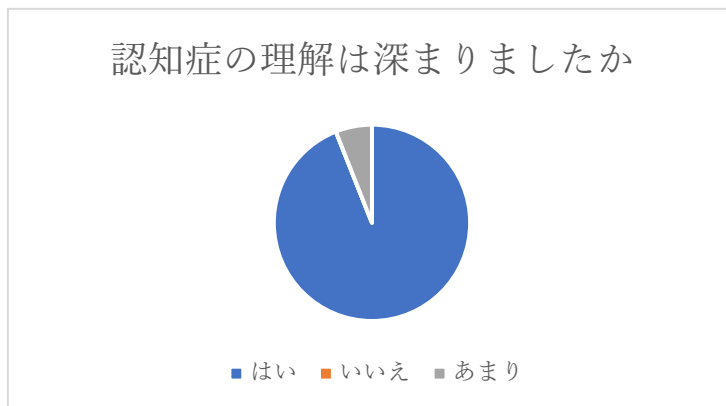
医師	2
薬剤師	0
看護師・保健師	15
社会福祉士・相談員	10
介護支援専門員	16
介護福祉士	3
事務職・行政職	4
理学療法士・技術職	1
その他	0

### 4.研修全体について「49 件の回答」



大変良かった	13
良かった	35
あまり	1

5.認知症への理解は深まりましたか「50 件の回答」

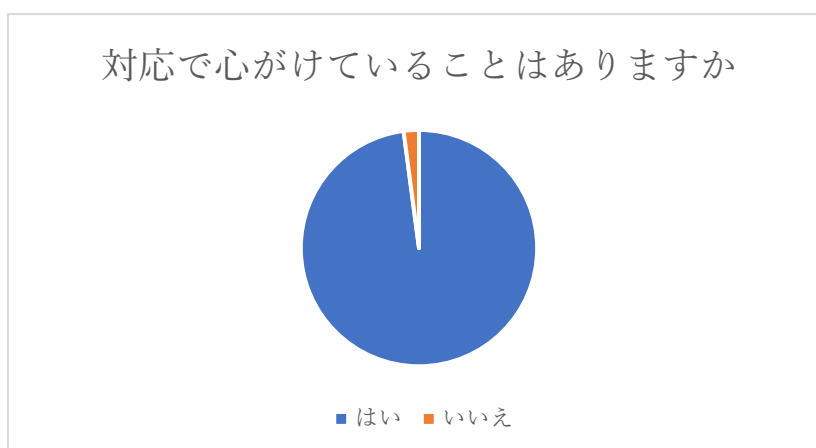


はい 47

いいえ 0

あまり 3

6.普段、認知症の方への対応で心掛けていることがありますか「51 件の回答」



はい 50

いいえ 1

「はい」とお答えになった方は具体的にお書き下さい。「48 件の回答」

挨拶や笑顔でいること

ゆっくり相手の反応を見ながら話す ・忘れてしまうので、必要なことはメモを書いて渡す ・できているがあれば労う。

否定しないこと

否定しない

研修の中でもあったように共感しながら、ゆったりとしたリズムでの話し方を心掛けています。

平等な関わり

視線を合わせて笑顔で、意思を上手に表出出来ない場合もあるので相手の言葉や仕草等も観察して察する

認知症の方であっても本人の意思はあるので汲み取れることができるように心がけている

声のかけ方に注意し、穏やかに話す

否定しない、一人でかかわらずチームでかかわる

寄り添う気持ちをいつも忘れない。心のハグを忘れない。

説明をなるべく短くわかりやすく工夫する。

その人らしさを大事にする。

表情、話し方等

個人の尊厳を尊重した対応を心がけています。ダメとか言わないようにしてます。

周囲の人が困ってしまうことが起きていても、認知症の人が一番困っているのだらうと思い接するようにしています。

一方通行でも挨拶と握手をする！

認知症だから・・・と決めつけた接し方をしない

相手に分かりやすい言葉で話すようにしています。

目線を合わせる ゆっくり話す等

笑顔で対応する

できるだけ分かりやすい言葉や対応をする。多職種で協力しながら。

できるだけ笑顔で接する

笑顔で穏やかな口調で、目線を合わせて、声掛けをする

相手の気持ちが落ち着くように、なるべく穏やかな対応を目指しています。

出来るだけ言動、行動を受け入れる

まずは笑顔で接することを基本として、何気ない会話から様子をうかがうようにしています。

優しく穏やかに接する

尊厳を持って対応する。

支援者の心理を映す鏡だと思っています。こちらが穏やかに対応することを心掛けています。

その方が楽しい時間を過ぎて頂けるように 笑顔で寄り添っています。

まずは、相手の言っていること疑わずに聞くこと、笑顔になっていただく声掛けです。

常識のある対応で思いやりを持つこと

家族と一緒にいても本人に向けて伝えるように話す。

否定せずに寄り添う

病棟に行くと患者さんに笑顔で挨拶しています

否定しないこと。

相手の主訴をできるだけ聞き取るために時間をかけながらも、まずはその方の背景、物語を聞くようにしています。

リラックスして話せる状況作りを心がけたいと思っている

悪い印象を与えないように笑顔で接し、共感をする。

傾聴し、相手の話を否定せず何を伝えたいのか気付けるよう努めている。

ユマニチュードを意識して対応しています。

丁寧に話を聞く

安心できる声かけや信頼関係が保たれる事

同じことを1000回でも聞いてあげる気持ちで接する

7.認知症になっても、その人らしく暮らすために支援者として出来ることはありますか。「51件の回答」



はい 50

いいえ 1

具体的にお書きください。「45件の回答」

正しい理解と対応を学び、接すること、地域の理解が広まるよう啓発に取り組むこと。

できていないことは否定せず、「お手伝いしましょうか」と話を聞き始め、どうしてできないのか、どうしたら一緒にできるか考える

話を聴き、何に困っているのかを読み取ったり、家族のサポートをする

施設にて喫茶での勤務をしていましたが、認知症がみられるようになりました。要介護1の認定を受けた後も、デイケアに通ってもらいながら、喫茶も同じように勤務(無給ですが)して頂いています。本人は勤務していると思いついていますが、他の方と食事をしたり、塗り絵をやったりとうまく馴染んでいます。

本人の意思を一つでも叶えられる様支援する

できればチームで関わり色々な人の支援や知恵を借りる

出来る限り不安を取り除けるように話し聞く

認知症の方に対する接し方などを学び、地域においても見守りをしていく

穏やかに接する様に気を付ける。周囲の方にも気を配る

理解してもらうを増やすために啓発活動をする

生活歴を知り、その方の「大切なこと」「生きてきたストーリー」を忘れずに接していく。

役割が持てる場を地域でもうけていく。

何事も一緒に楽しむ

その方のこれまでの生活や生き方を知ること。これまでと同じ暮らしは難しいかもしれないが、その人が心地よく暮らしていける方法をチームで考えていく。

環境を代えずに在宅で出来るだけ生活できるように支援したいと考えています。

本人との会話や思い出の手がかりを見つけて、その人の理解につなげていくことだと思います。

否定しないこと

実際には難しいことだと思うので、いろいろな関係機関で協力して支援できるといいなと感じる認知症だからと特別視せず、さりげなく見守っていきたい。

どんな支援が必要か一緒に考えていく

その人らしくという言葉にあるように、まずその人を深く知ることが大前提なので、多職種で情報を共有して、皆で支援していくことが大切と思う。

その人の好きな空間づくり、環境整備、興味のある話を傾聴する

もともとのその人らしさをまず知る努力が必要だと思います。

まわりの理解と協力

寄り添うことが大事だと思います。

その人らしさを生かす

地域としての見守り。

すべてを失った訳ではないので、役割・やりがいを見つけるお手伝いができる

不安を抱えられているかと思いますので 少しでも安心されるように寄り添いが大事だと思います

根気よく寄り添いながら支援する。

寄り添う

尊厳を守ること

生活するなかで不安が増大しないように地域で支える。またその中の一人となる。

本人が望む生活の支援 認知症になっても自宅で暮らせるよう地域で支援したい

保証人の問題をみんなで考えていきたいです

受け入れること。

その人らしさを引き出せるようにまずは傾聴と受容。その方の持つ強みをうかがっていく。その上で必要な資源を共に考える。

思いに寄り添うこと

側に寄り添う

その方の生きてきた過程をアセスメントし、何が望む暮らしなのかを知ることで必要な支援が見えると思います。

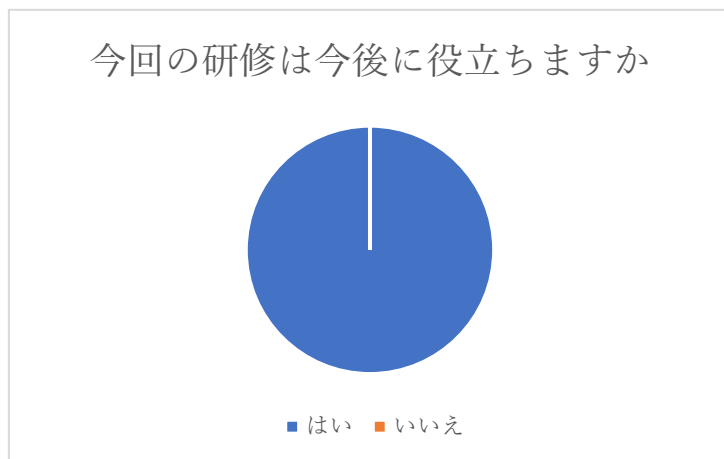
本人を尊重すること

地域で見守る目を持ちたい

色々な機関と協力できるネットワーク

会話の中から一番望んで居るであろう事から支援して行く、違ったらその次へ・・・

#### 8. 今回の研修は、今後に役立ちますか「50 件の回答」



はい 50

いいえ 0

#### 9. その他、自由意見がありましたら何でもお書きください。

認定看護師さんは普段の業務がお忙しいとは思いますが、認知症地域支援推進員もいつか連携や相談ができる機会が得られるとよいなと感じています。とても参考になりました。ありがとうございました。

グループワークになった時会話ができない状態が長く続き時間がロスした。スムーズにグループワークに移行できるようなシステムが必要です。

大変勉強になりました。有難う御座いました

認知症の方というと「話が通じない。」「困らせる。」と言ったような悪い面が目についてしまうが、その方の行動には意味があるということを意識しながら対応していきたい。

在宅にもかかわる事例でグループワークがしたかった

認定看護師の古井氏の言われた、コールを何回もする理由がわからないことを、本人もわからないことが多い、というのはなるほどと思いました。

グループワークにうまく参加できなかった。無言の時間になってしまった。

ファシリレーターがわからなくて、お互いに遠慮してしまった。

手元に資料があるとわかりやすい。

声が聞き取りにくい場面があった。

・沢山のご意見ありがとうございました。今後共ご参加、ご協力をお願い致します。

文責：豊川市医師会在宅医療サポートセンター 柳生逸子